

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

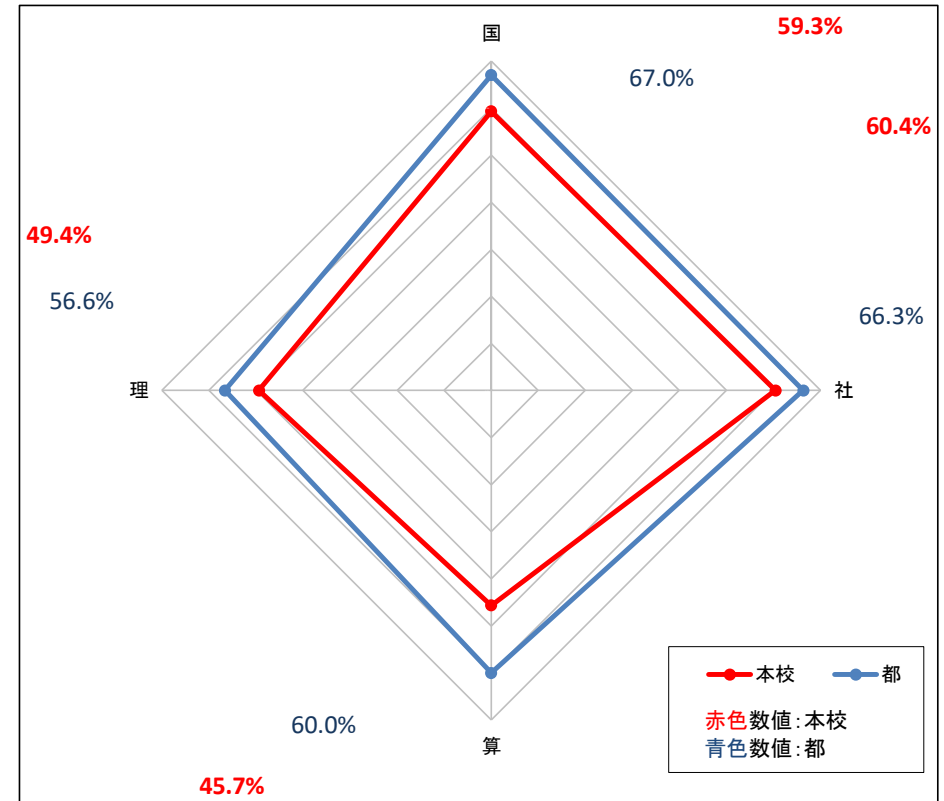
平井南小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	56.4%	71.8%	62.1%	53.1%	59.3%
都との差	-9.5	0.9	-5.0	-12.8	-7.7

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	54.4%	63.0%	62.2%	60.4%
都との差	-8.7	-3.5	-7.6	-5.9

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	30.8%	51.1%	54.7%	45.7%
都との差	-15.6	-14.1	-13.1	-14.3

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	50.2%	52.6%	47.1%	49.4%
都との差	-2.7	-13.8	-7.9	-7.2



《都との比較にみる本校の状況》

- ・国語の教科の観点「書く能力」のスコアは、都と比較するとやや高くなっている。これは、昨年度に引き続く傾向である。
- ・国語の教科の観点「言語についての知識・理解・技能」のスコアは12.8ポイント下回っている。学習の基礎となる言語の知識、理解、技能を身に付けさせていく。
- ・算数は教科の各観点及び教科の合計のスコアを都と比較するとそれぞれ14ポイント程度下回っている。児童一人一人の習熟度に応じた習熟度別学習をさらに進めていく。
- ・理科の教科の観点「観察・実験の技能」のスコアは、都と比較すると13.8ポイント下回っている。主体的に実験に取り組むことができるような学習を組み立てていく。
- ・その他の項目について都と比較するとやや低いスコアとなっている。これらの項目についても授業改善に取り組むとともに家庭・地域との連携をさらに深め、学力向上に努める。

《授業改善のポイント》

- ・基礎・基本の定着が難しい児童に対して、スモールステップの学習を通して「わかる楽しさ」「できる楽しさ」を味わわせ、知識、技能を定着するとともに学習意欲を高める。
- ・東京ベーシックドリル等を用い、習熟度に応じて「立ち戻る指導」を行い、基礎・基本の定着を図る。
- ・授業において、じっくり考えたり、発表したりすることを大切にする。授業の中で、自分の考えを書いたり、発表する時間を必ず設けるようにする。
- ・国語を中心に教育活動全体を通して言語活動の充実を図る。特に高学年では、引き続き学習班の編制を工夫することで、児童相互の意見交換が活発に行える学習環境を整備する。
- ・算数については、日常的に「算数的な活動」を取り入れ学習活動を展開する。
- ・社会、理科については、社会事象、自然事象を問題として児童が主体的に問題を解決していく学習活動を行い、児童の思考・表現の力を高めていく。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・江戸川区の読書科の学習を受け、読書を推進し、読むこと自体が苦手な児童の、読むことへの抵抗を軽減するよう家庭・地域での読書を働きかける。
- ・高学年になっても、家庭学習について、家庭での確認が必要な場合があることを伝え、親子のコミュニケーションを促し、親子で一緒に家庭学習に取り組んでもらうよう呼びかける。
- ・各教科において、実生活との関連を図った家庭学習、自主学習の課題提示を工夫し、主体的に学習する態度を養う。
- ・1,2年生では生活科、3~6年生は総合的な学習において地域の人材、環境を活用して、地域と共に学習する楽しさを味わわせ、学習意欲を高める。
- ・学習ボランティアの協力を得て、個々の児童への学習の補助をする。

